

天山山脈の最高峰、トムール(七、四三五尺)の三人は今夏、三度目の遠征をする。

は、中国新疆ウイグル自治区にそびえる。横浜市立大学天山トムール峰登山隊は外国隊として初の登頂に挑んだが、西堀秀二隊長ら三人が遭難、三十年来の夢は実らぬまま四年目の夏を迎える。



費用の自己負担は一人百万円。「総額の二割はカンパなどに頼るが、極力周りを巻き込まずに自力でやりたい」

難を免れた隊員たちはこの間も、登頂を断念してはいなかった。横浜市保土ヶ谷区、吉田宣明さん(三九)、同市港北区、田村康一さん(三七)、横須賀市馬堀海岸、吉見敦司さん(三九)の三人は今年、二度目の遠征をする。六月一日の出発に向け荷造りも終えた。帰国は八月末。吉田さんが会社を休職、吉見さんは大学を今春卒業、就職は見送った。田村さんは五月で会社を辞め退職金を遠征費に充てる。

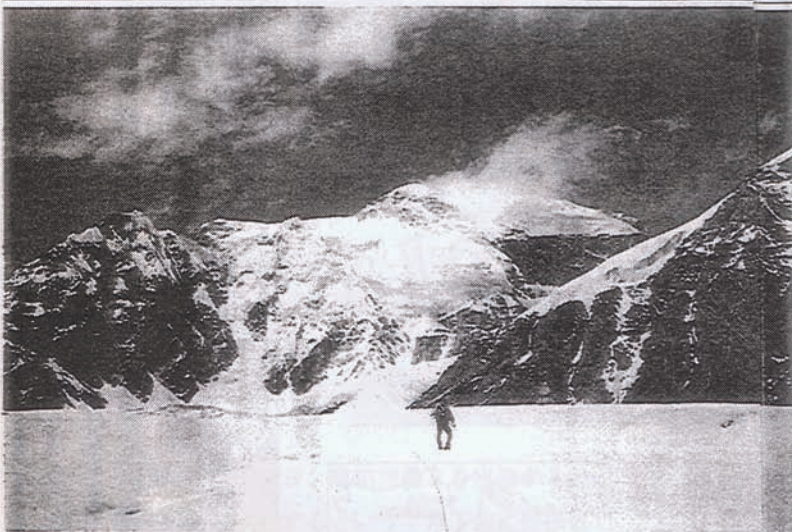


果たせぬ夢に挑戦

では、西堀隊長らが遭難した五、八〇〇尺地点に到達できた。だが、雪崩などで、けが人も出て下山している。吉田さんら三人は今回が三回目。前回までとは

愛煙家の二人は二カ月前、高所訓練する

隊長ら三人の遭難者名を刻むプレートを背に、右から吉田、田村、一人置いて吉見の各隊員
|| 前回の遠征時に天山山脈で
前から愛煙中だ。「ほかに考えられる手はずすべて打っています」
こんなにも、なぜトムール峰にこだわるのか。
「隊長と親友の隊員の命を奪った高峰だから。一緒に登った仲間としては負い目がある」「遺志を継ぎ、登頂を極めないと自分自身、納得がいきません」。そろって重い口調だった。



中央右奥の雪に隠れているのがトムール山頂。アタックベースキャンプ(4500m)からキャンプ1(4500m)へ向け氷壁を下る古見誠司隊員



はるかなるトムール峰

眠る仲間の遺志引き継ぎ



トムール峰頂登攀の前に高度順化のために買ったムスタング・アタラ。手前はネパールのラグ

4人1組の登山隊が、トムール峰の頂上を目指して、9月12日に登山を開始した。登山隊は、トムール峰の頂上を目指して、9月12日に登山を開始した。

3度目の挑戦も涙

トムール峰の頂上を目指して、9月12日に登山を開始した。登山隊は、トムール峰の頂上を目指して、9月12日に登山を開始した。

横浜市大OB登山隊



ベースキャンプ(4500m)の氷壁に設置した1990年登山隊の遺志プレート。命日に当たる9月12日、トムール峰の頂上へ

